Panasonic

ライトマネージャー記憶式 専用 パーティション子器
ＮＫ２８６００

施工説明書 取扱説明書

かならず専門業者の方が施工を行ってください。
お客さまへの取扱説明書を裏面に記載しております。
必ずお客さまに取扱いの説明を行っていただき、この説明書をお渡しの上、保管をお願いしてください。

安全に関するご注意

ケガや事故防止のため、
以下のことを必ずお守りください。

⚠ 警　告

- ●誤結線なきよう、ご注意ください。特に終端抵抗取付け時には、必ず１−ＲＣ＋、１−ＲＣ−、２−ＲＣ＋、２−ＲＣ−の端子記号を確認してください。
- ●本器に100V交流電源を接続しないでください。機器が破損し、火災の原因になります。
- ●浴室など湿気が多いところに取付けないでください。火災や感電の恐れがあります。
- ●２ボタン子器と併用して使用する場合は、同梱のシールをボタン等に貼って、２ボタン子器区別がつくようにしてください。

本器は、ライトマネージャー記憶式（親器）専用のパーティション子器です。

【仕様】

定格電圧	専用の信号線により親器から給電
使用温度範囲	０～３５℃（結露なきこと）
適合電線（伝送信号）	ＥＭ−ＣＰＥＥ−Ｓ φ０．９×２ペア以上
適合スイッチボックス	JIS １個用

同一スイッチボックス内で本器及び他の子器と連接取付はできません。

【適合機器（親器）】

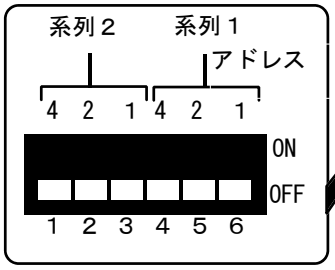
ライトマネージャーＳ　４回路・６回路　NQ28641,NQ28661
ライトマネージャーＬ　４Ｃ　・６Ｃ　　NQ27041,NQ27061

【取付方法】

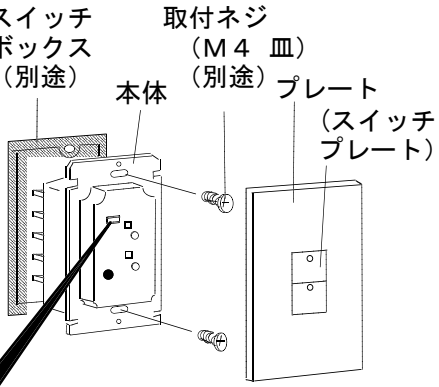
同梱部品

終端抵抗	2個
プレート	１個
施工説明書 取扱説明書	１枚
表示シール	１枚

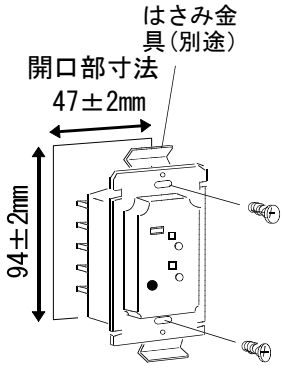
アドレススイッチ



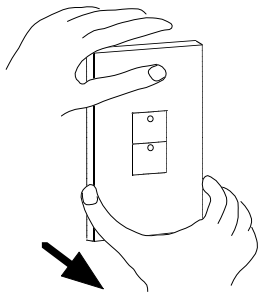
・スイッチボックス取付けの場合
（JIS １個用スイッチボックスを使用してください）



・板壁取付けの場合
（はさみ金具を使用してください）



プレートの外しかた



プレートの上部を押さえ,プレートの側面下部をつかみながらひっぱってください

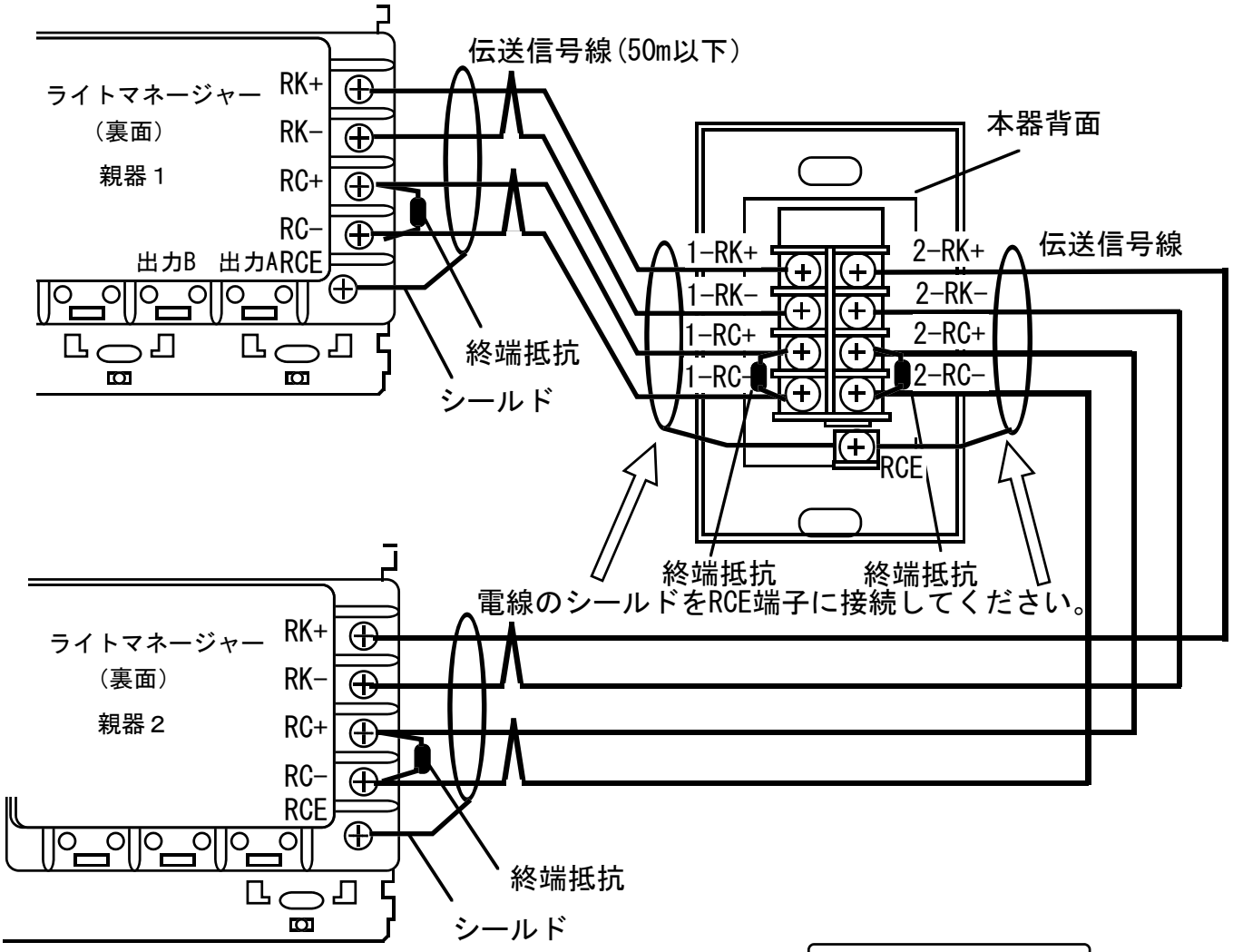
⚠ 注　意

- ● 親器と端子記号が一致するよう配線してください。
  動作や表示に異常があるときは、端子の接続に間違いがないか確認してください。
- ● 取付時、取付ネジを強く締め付けないでください。締め付けすぎるとプレートが歪んで押しボタン操作ができなくなる場合があります。
- ●プレートを取付後、押しボタンの凹みや引っ掛かりがないことを、確認してください。
- ●プレートを外す際スイッチプレートも一緒に外れることがあります。
- ●プレートは上下の方向を間違えないよう取り付けてください。
  間違えて取り付けると破損することがあります。

【結線方法】

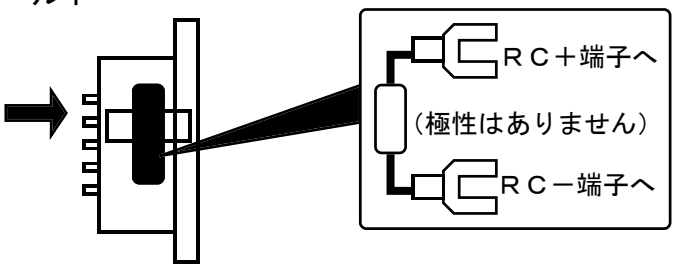
下図は本器と親器を１台づつ配線した場合の図です。
子器や親機を複数台配線する場合は【親器・子器を複数台接続する場合】を参照してください。
配線にはＣＰＥＶ－Ｓ φ０．９×３ペアをご使用ください。
信号線の両端の機器のみ、RC+とRC−端子間に終端抵抗が必要です。
終端抵抗を取付けた機器間の総信号線長は５０ｍ以下です。

注意：結線後は電線を引張って抜けないことを確認してください。



【終端抵抗について】

終端抵抗は、箱を開けていただくと、
ビニール袋に入れて、本体の側部位置
に貼り付けております。



ご注意　終端抵抗がなかったり、両端以外の機器に終端抵抗を接続すると、
動作に支障をきたす場合があります。

【リセットボタンについて】

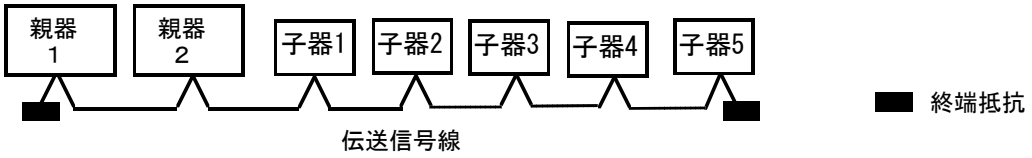
万一、操作が効かなくなった場合は、プレートを外し、リセットボタンを精密ドライバーなどで押してください。このとき親器のリセット操作も一緒に行ってください。
リセットボタンを使わなくても、ブレーカで親器の電源を切れば、親器・子器共にリセットすることができます。いずれもリセットしても記憶させたシーンの内容は消えません。

パナソニック株式会社　施設・店舗照明ビジネスユニット　〒571-8686 大阪府門真市門真1048
お問い合せ先　パナソニックお客様ご相談センター　0120-878-365（フリーダイヤル） 0120-878-236（FAX）

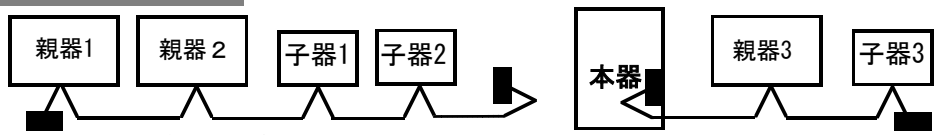
この説明書は2012年1月1日に作成されたものです。
NK28600-4

【親器・子器を複数台接続する場合】

ライトマネージャーシリーズの子器の接続方法は、各機器を１台ずつ送り配線します。
両端の機器には必ず終端抵抗を取付けてください。終端抵抗を取付けた機器間は
一筆書き状の配線になります。この終端抵抗間の配線を系列と呼びます。
親器は２台まで、子器は最大５台まで接続可能です。



本器の配線方法



伝送信号線（系列１）　　伝送信号線（系列２）

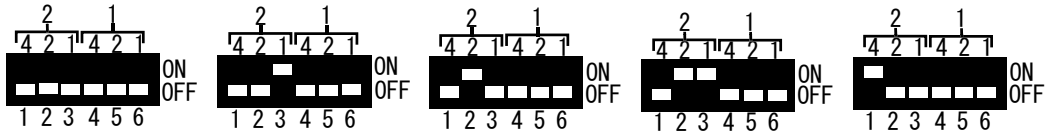
子器の台数
系列１：本器含めて３台
系列２：本器含めて２台

本器は２系列の伝送信号間の動作を連動・非連動させる機器です。各系列には必ず親器（最大２台）が必要です。連動させたい伝送信号間を連結させるように、各系列で送り配線してください。両端の機器には必ず終端抵抗は必要ですが、本器にある必要はありません。同系列内に接続できる子器の数は本器を含め最大５台までです。

アドレス設定

同系列内で本器および他の子器を２台以上使用するときには、アドレス設定が必要です。
それぞれのアドレススイッチを別にしてください。系列１と系列２のアドレスが
同じになっても構いません。

＜系列１のアドレス設定の例＞

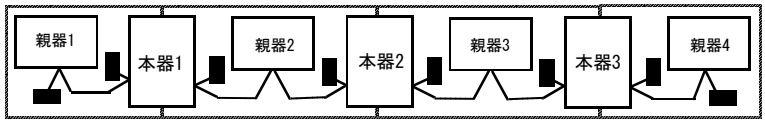


本器を複数台使用する場合

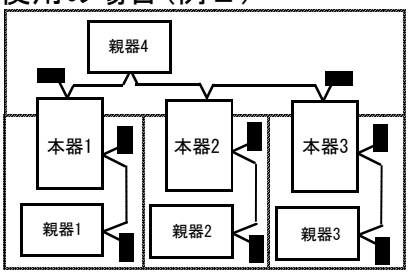
本器は最大３台まで接続することができます。下記の組み合せが可能です。
（だだし３台をループ状に接続することはできません）

２台使用の場合

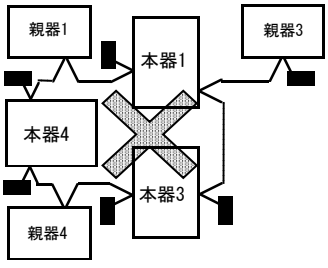
3台使用の場合（例１）



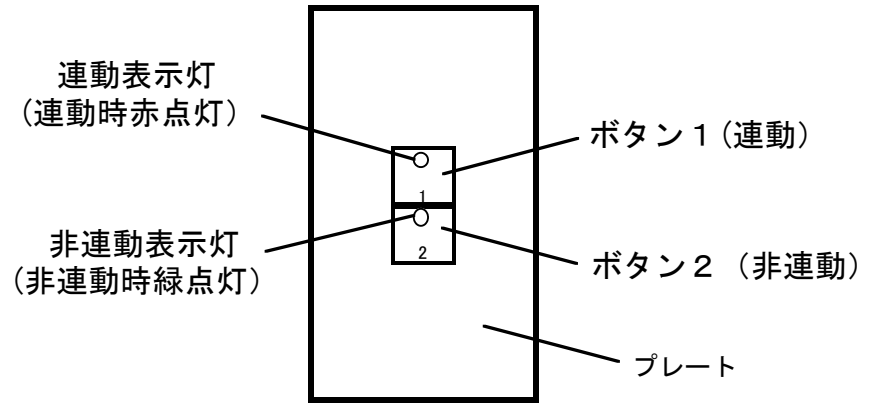
3台使用の場合（例２）



ループ接続は禁止



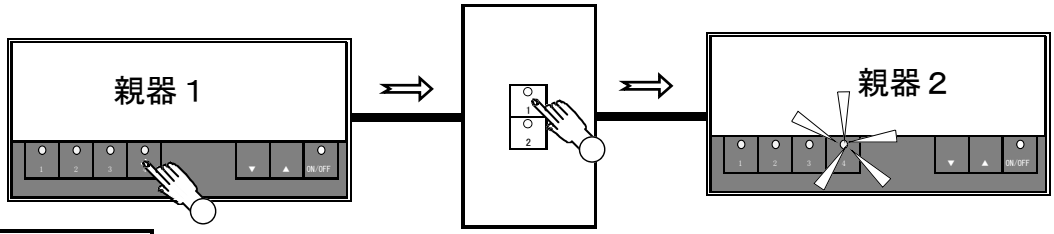
【各部のなまえと使い方】



ボタン1を押すと連動動作、ボタン２を押すと非連動動作になります。

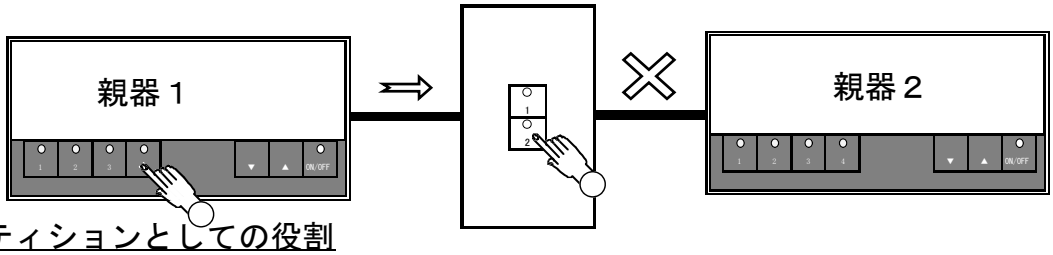
連動の場合

親器１でのシーン選択が，親器２にも反映されます。また、親器２でのシーン選択も，親器１に反映されます。連動するのは、シーン選択、全消灯、マスター調光の親器、子器からの操作です。



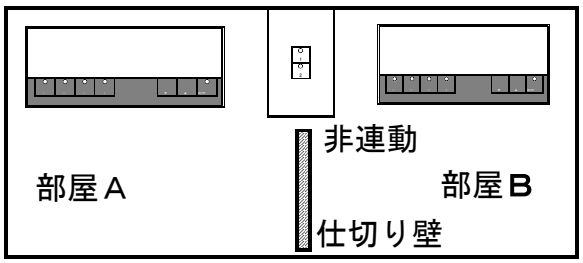
非連動の場合

親器１でのシーン選択が，親器２には反映されません。また、親器２でのシーン選択が，親器１には反映されません。

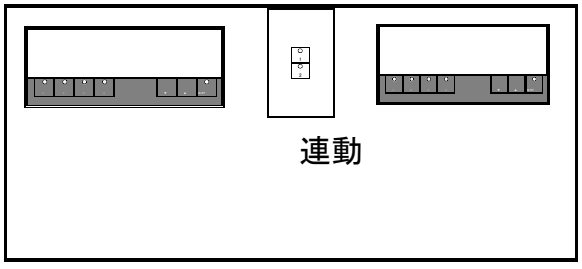


パーティションとしての役割

非連動の場合、部屋Ａ 部屋Ｂで
独立した操作ができます。



連動の場合、パーティションをはずせば
各親器から部屋共通の操作ができます。



【保証について】

この商品の保証期間は１年間です。保証書が必要な場合は 弊社営業所または弊社までお申し出てください。

パナソニック株式会社　施設・店舗照明ビジネスユニット　〒571-8686 大阪府門真市門真1048
お問い合せ先　パナソニックお客様ご相談センター　0120-878-365（フリーダイヤル） 0120-878-236（FAX）

この説明書は2012年1月1日に作成されたものです。
NK28600-4